大学生の恋愛における疲労感の探索的検討

髙坂康雅[1]
([1]和光大学)

【問題と目的】

恋愛関係では，様々な感情が生起することが指摘されている。例えば立脇(2007)では，異性交際中に生じる感情として，情熱感情，尊敬・信頼感情，親和不満感情，攻撃・拒否感情の 4 種類を抽出している。一方，恋愛関係において一般的に語られる「疲れ」(疲労感)については立脇(2007)をはじめ，これまで十分に検討されていない。

本研究では，大学生の恋愛関係の疲労感とその要因について探索的に検討することを目的とする。

【方　法】

分析対象者：現在恋人がいる大学生 44 名(男子 12 名，女子 32 名)，及び以前恋人がいたことがある大学生 24 名(男子 8 名，女子 16 名)を分析対象者とした。

調査内容　①恋愛関係における疲労感：恋人との関わりの中で感じる疲労感について，1「いつも感じている(感じていた)」，2「ときどき感じている(感じていた)」，3「たまに感じることがある(感じることがあった)，4「ごく稀に感じることがある(感じることがあった)，5「まったく感じることはない(感じることはなかった)」のなかからひとつ選ぶように求めた。

②疲労感を感じる(感じていた)理由：①で 5「まったく感じることはない」以外を選択した者に，恋人との関わりの中で疲労感を感じる理由について，自由記述で回答を求めた。

調査時期・方法：2012 年 1・2 月に授業の一部を用いて集団で実施した。

【結果と考察】

①恋愛関係における疲労感　恋愛関係における疲労感について回答を求めた結果，約 70%の者が，「たまに」以上の頻度で疲労感を感じていることが明らかになった(Table 1)。

②恋愛関係における疲労感の要因　恋愛関係における疲労感を「まったく感じることはない(感じることはなかった)」以外に回答した者に，疲労感を感じる理由について自由記述を求めたところ，118 個(男子 29 個，女子 89 個)の記述が得られた。得られた記述を心理学を専攻する大学生 3 名(いずれも女子)が内容の類似性をもとに合議で分類したところ，「その他」を除く 8 つのカテゴリーに分類された(Table 2)。

最も記述が多かったのは「相手からの束縛」であった。宮下・臼井・内藤(1991)は失恋の原因として 8 つのカテゴリーを抽出しているが，「相手からの束縛」に対応するカテゴリーはみられていない。つまり，「相手からの束縛」によって別れることはないが，疲労感は生じると考えられる。また男子では「相手への気遣い・配慮」が女子よりも多く，女子では「相手の不誠実さ」が男子よりも多くみられたことから，男女で恋愛関係で疲労感が生じる要因が異なることが推測される。さらに，「性役割への圧力」に関する記述は女子のみでみられており，恋愛関係において女子は“女性らしさ”を求められていると考えられる。

今後は，恋愛関係における疲労感及びその要因について数量的に捉えていくとともに，その背景にあると考えられる本人及び恋人の自我発達との関連について検討していく。

Table 1　恋愛関係における疲労感の回答分布

	男子	女子
いつも	1(5.0%)	2(4.2%)
ときどき	3(15.0%)	18(37.5%)
たまに	9(45.0%)	16(33.3%)
ごく稀に	5(25.0%)	7(14.6%)
まったく	2(10.0%)	5(10.4%)
合計	20(100.0)	48(100.0%)

Table 2　恋愛関係における疲労感の要因の分類結果

カテゴリー名	男性	女性	合計
相手からの束縛	9(31.0)	18(20.2)	27(22.9)
価値観の相違	3(10.3)	13(14.6)	16(13.6)
相手からの関わりの低さ	4(13.8)	10(11.2)	14(11.9)
相手の不誠実さ	2(6.9)	12(13.5)	14(11.9)
相手への気遣い・配慮	4(13.8)	7(7.9)	11(9.3)
意志の疎通ができない	1(3.4)	10(11.2)	11(9.3)
相手の自己優先	3(10.3)	8(9.0)	11(9.3)
性役割への圧力	0(0.0)	7(7.9)	7(5.9)
その他	3(10.3)	4(4.5)	7(5.9)
合計	29(100.0)	89(100.0)	118(100.0)